

院内転倒患者における隠れたサブタイプの探索

1. 研究の対象

- ① 2012 年 1 月 1 日以降に高知大学医学部附属病院へ入院し、2025 年 3 月 31 日までに当院を退院した患者様。なお、該当期間に複数回入退院歴のある方は、本研究においては初回の入退院期間のデータを解析対象といたします。
- ② 入院時点で年齢が 18 歳以上である患者様
- ③ 附属病院に入院中、転倒された患者様

以上① ～ ③の条件を全て満たす方の診療記録を参照し、解析します。なお、連続した入院期間が 3 日未満であった方は除きます。

2. 研究目的・方法

【目的】

転倒は、高齢の方や入院中の患者様によく起こる問題です。転倒すると、けがをしたり、不安を感じたりするだけでなく、入院期間が長くなったり、生活の質が下がったりすることがあります。

これまでの転倒予防の取り組みでは、「転倒する人」を一つのグループとして考えることが多く、患者様一人ひとりの違いにあまり注目していませんでした。しかし、1 回のみ転倒する方と、何度も転倒してしまう方では、体の状態や原因が異なる可能性があります。

最近の医学研究では、コンピューターを使った「機械学習」という方法で、患者様の様々なデータを分析することで、これまで気づかなかった患者様のグループ分けができるようになってきました。私たちの研究では、病院内で転倒する患者様のデータを機械学習で分析し、特に「1 回だけ転倒する方」と「何度も転倒する方」の違いを明らかにしたいと考えています。

【方法】

上記対象の患者様の診療記録（電子カルテシステムのデータベース上）を参照し、解析します。

【期間】

・研究期間：

高知大学医学部倫理委員会での承認日から 2029 年 3 月 31 日までを予定しています。

・利用又は提供を開始する予定日：2025 年 6 月 1 日 ～

3. 研究に用いる情報の種類

情報：性別、年齢、登録病名、入院中の各種検査値など。本研究に必要な医療情報のみを抽出し、どの患者様の情報であるか直ちに判別できうる情報（氏名・住所・生年月日など）は使用いたしません。

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者様もしくは患者様の代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者様に不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

兵頭 勇己（高知大学医学部附属医学情報センター 講師 / 理学療法士）

〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮

電話：088-880-2212 FAX：088-880-2214

研究責任者：

畠山 豊（高知大学医学部附属医学情報センター 教授・センター長）